寮生活での経験

函館五稜郭病院
前田（まえだ） 一（はじめ）

江差町出身。函館ラ・サール高校を経て札幌医科大学へ進学。卒業後は函館五稜郭病院で研修医１年目として働いています。大学時代は空手道部に所属し６年間汗を流しました。最近はドラムにハマっています。写真はセブ島での１枚。

初めまして。函館五稜郭病院研修医１年目、前田一と申します。前回のリレーエッセイ筆者である清水裕貴先生よりご紹介いただきました。このリレーエッセイは、年代の近い医師が今何を感じ、何を考えているのかを教えてくれるので、大変良い企画だと思っております。もうすぐ初期研修２年目に差し掛かろうとするところですが、函館はとても過ごしやすい街だなと改めて感じております。春は五稜郭の桜がとても綺麗で、冬は札幌ほどのドカ雪にならないのがいいですね。

エッセイ執筆にあたって、27年生きてきた中で今の自分に最も影響を与えたものについて書こうと思いました。そこで今回は高校時代の寮生活について書きたいと思います。僕は地元江差町で中学校卒業後、函館ラ・サール高校に進学しました。この高校では１年生は体育館のような大広間に、２段ベッドが敷き詰められた所で皆で寝ます。僕の時は１年生が56人いましたので、56人部屋と呼んでいました。その部屋には夜12時の就寝時間を過ぎて消灯しているのにも関わらず深夜まで話し込んでいる奴や、皆が勉強する自習室でふざける奴などプライベートのプの字もありませんでした。常に周りに同級生がいる状況であり「集中したいな、今は話しかけないでほしいな」という時にもお構いなしです。また、スマートフォンを寮に持ち込むことが禁止であり、持ち込んだことがバレると没収されて高校卒業と同時に返却されます。テレビも一台しかなく、いつも誰かが占領しているため自分の好きなテレビを観ることができません（夜の時間はいつもプロ野球中継が流れていました。しかも日ハムのいないセ・リーグ）。極めつけはお風呂です。学校での用事を済ませて寮に帰るのが遅くなった時、ラグビー部やサッカー部、野球部などの外で行う部活が終わる時間とお風呂が被ると最悪です。彼らは練習着を風呂場の前の脱衣所で脱ぐため、練習着に付いた砂が脱衣所の床に散らばります。するとどうでしょう、脱衣所の床は砂まみれとなるのです。お風呂から上がった際には、しかたなく砂の上を歩かざるを得ずとても嫌な気持ちになっていました。当時を振り返ってみると、正直よくこんなところで生活していたなといった感じです（口が悪くてすいません……）。

ただ、無駄だったかと言われれば全くそうは思いません。理不尽なことやちょっと嫌だなと思うことに耐える力、受け流す力をこの寮で学んだ気がします。すぐ周りに友達がいる状況なので、悩みを相談して同じ気持ちを共有できたことが良かったです。高校２年生からは４人部屋となるのですが、その友達とは今でも連絡を取り合っています。また、自分が理不尽な状況に慣れていった、執着しなくなったことで理不尽を受け流すことができていたと思っています。たとえ周りがうるさくて集中できなくても、好きなテレビ番組が観れなくても、お風呂場が汚くても、ストレスで押しつぶされることなく生きていけるなと。もう二度とラ・サール寮での経験はできませんししたくもありませんが（笑）、人生のうちに一度は経験して損はないかなと思ってしまうのです。それはなぜでしょうか。それは、理不尽の辛さ以上に学べることが多かったからだと思います。社会に出て働き始めてからも理不尽なことは少なからずありますし、むしろ社会に出てからの方が多いと思います。しかし、「こんなもん、あのラ・サール寮に比べたら全然」と思わせてくれます。現代では働き方改革が進み、そういった理不尽は昔と比べて少ない傾向にあるのかもしれません。「時間外労働減らして！自分の時間を優先！」。もちろんその考えは分かりますし適応していくべきですが、全部その考え方でいくと楽な方向へと進んでいってしまい、そこに人としての深みや成長はないと思うのです。したがって、仕事の中にある程度の不合理さを残すべきと僕は考えます（その程度が自分では決められないので難しいのですが……）。

少し話が逸れてしまいましたが僕が伝えたかったことは、一見無駄に思える「理不尽」ですが決して無駄ではなく、大抵の不合理を乗り越えられる力をもっているということです。これからも理不尽なことは多く経験すると思いますが、耐えつつも受け流していきたいと思います。まだまだ社会人１年目の身で恐縮ですが、日々悩みもがきなら、成長していく所存です。

※ラ・サール寮を非難しているわけではありません。